

山麓もよう

交流の家周辺の体験情報をご紹介します！

【はなぶさ農園】

はなぶさ農園に行くと、まずブルーベリーの種類の多さに驚かされます。たくさんの種類のブルーベリーが摘み取り時期が早いものから順番に並んで植えてあります。手前は摘み頃で、1番奥はこれから摘み頃がやってくる、というように様々な時期のブルーベリーを見ることが出来ます。種類も豊富なので、長い期間、ブルーベリー摘みが出来ることのはなぶさ農園の特徴です。農薬を使わず、無農薬栽培していますので、摘んだブルーベリーをすぐに食べられます。ブルーベリー摘みは6月上旬から9月の下旬まで楽しむことが出来ます。



↑ 栗拾いの様子



↑ 芋掘りの様子

これからの秋の時期は、栗拾いやサツマイモ掘りなども体験も出来ます。サツマイモは掘った後に焼くことも出来ますので、はなぶさ農園で秋の味覚を楽しんでみませんか？ (文：黛)

- 所要時間: 交流の家から車で15分 ■対象: どなたでも
- 住所: 〒371-0122 群馬県前橋市小坂子町押込1917-2 (小坂子摘み取り園)
- TEL: 027-288-8888
- ホームページ: <http://www.hanabusa-farm.com/>
- 栗拾い 8月下旬～11月上旬 1kgあたり 1,500円
- 芋掘り 9月上旬～12月上旬 1kgあたり 800円 ※芋は焼くことも出来ます。料金は要相談。

『自然体験について』

リレーcolumn
またっふの目

文: 原田 明彦
【はらだ あきひこ】



ザスパクサツ群馬の大ファンの原田さん。ホーム戦もアウェイ戦も応援に行っています!!

私が生まれた昭和の時代、小学生の頃にはまだ家庭用ゲーム機はありませんでした。放課後に何をして遊ぶかという、空き地で野球とか缶蹴りとか、あとは田舎だったので山で探検とか、川で泳いだりしていました。

最近の子どもたちはゲームばかりして、なんて私たち大人はよく言ってしまう。でも、子どもたちからすれば、「公園でボール遊びしちゃダメ。危ないから川で遊ぶな」と大人から言われているので、そういう遊びができないのだろうなとも感じています。もちろん、大人は子どもたちを危険な目に合わせたくないから言うのだし、そのおかげで、昔より野外での事故は減っているのでしょう。

それでも、子どもたちってとても好奇心いっぱいだし、自然の中で思いっきり身体を動かして遊んでみたいって、みんな思っているんじゃないでしょうか。そして、怪我のないよう安全を管理して、子どもたちが大暴れできる機会を提供することが、私たちみたいな職員の役割なんじゃないかと感じています。

ぜひ、国立赤城青少年交流の家で思いっきり遊んで学んで、たくさんの友だちと素敵な思い出を作ってください。一児の父として、そう強く願う 今日のごとです。

つぶやき田

【テーマ: 秋の五・七・五】

- 全身が 悲鳴を上げる 運動会 (木暮)
- 長雨や 草はすくすく 伸び放題 (佐藤)
- かぜ薬 クリームシチュー 鍋のもと (手島)
- 落ち葉より 散財多し 食欲で (今井)
- 要注意!! 食欲の秋も やって来た (鈴木)
- 目にうつる キャンプの思い出 秋あかね (大濱)
- 新米を かまどで炊ける 有難さ (根本)
- 休暇明け ライブの記憶を 活力とせむ (森田)
- 錦繡の 秋の深山に 誘われて (原田)
- 蟬しぐれ 日暮れの早さ 風乾き (杉浦)
- 押入れの 冬物あさり 冬支度 (松崎)
- 雨上がり ふと見上げれば 秋の空 (織間)
- 秋深し 隣は何を する人ぞ (高瀬)
- 涼しい夜 秋刀魚の塩焼き 食べたいな (渡邊)
- 秋雨かあ 北海道には なかったなあ (阿左見)
- 赤城山 名前のように 染まる秋 (田中)
- まん丸の 柄の木の实 つい拾う (田野崎)
- さわやかな 風を愉しむ 秋の山 (高橋)
- 秋の月 月夜が照らす 生ビール (江原)
- 秋あかね 夕焼け空に よく似合う (新井)
- たいふうで 落ちたか落ちぬか どんぐりの (山田)
- いざ行かん 安芸の宮島 ヒトリ旅 (落合)
- 秋野菜 豊作祈って 世話をす (黛)

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ

10-11
2015



「アサギマダラ」

日本列島を横断する渡り蝶「アサギマダラ」

海を渡り、長距離飛ぶことで有名だが、その距離は2,000km以上。春から夏にかけて南から北へ渡り、秋になると南下していく。アサギマダラの寿命は4～5ヶ月。何故、生涯をかけて長距離飛行をするのか。その謎は深まるばかりだが、そんな謎めいたところもアサギマダラの魅力の1つといえるのではないだろうか。

交流の家付近でも飛んでいる姿を見かけます。秋の空に華麗に舞うアサギマダラを是非見てみてください。

次号は、
12月1日発行予定!

体験の風を
おこそう

「交流の家HP」
「Facebook」で
当所の情報を更新中



風のおと

『新たな侵略者』

私の家にテレビがやってきたのは小学校1年生の春でした。その秋、東京オリンピックが開催され、急速に家庭に普及した頃でした。プロレスにジェスチャー、戦争ドラマのコンバットなど、みんながテレビに夢中になり、ある学者が「国民がテレビに侵略された」と揶揄しました。確かにあの頃、昨日の話はまずテレビ番組の話題でした。

あれから半世紀が経ち、テレビ番組に一喜一憂することも少なくなりました。そして今、テレビに代わって、ひと時もスマートフォンを手放せない人が増えています。若い人に関けば、ゲームにLINEにツイッター、カメラで撮った写真は即Facebookに載せられ、電話と言うよりネット通信機です。LINEのグループ数が30以上など当たり前らしいですよ。

国立青少年教育振興機構の調査では、日本の高校生は『体験活動』『勉強の目的』『親子関係』の回答が米国、中国、韓国を含む4ヶ国中で最も低い値でした。

また、1日にインターネットを「4時間以上利用している」割合も米国に次いで12.2%に及んでいます。

この手強い新たな侵略者をコントロールできるか。ネット依存者への対策プログラムは始まったばかりです。

所長 杉浦俊之

国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00～18:00)

FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27

E-mail: akagi@niye.go.jp

～ひとりで歩く、仲間と歩く8日間～

8月15日(土)～22日(土)7泊8日の日程で「赤城やまなみチャレンジキャンプ」を開催しました。この事業は、仲間と一緒にテント泊をしながら赤城の山々を巡り、赤城山を構成する主要な七山(黒檜山・駒ヶ岳・鈴ヶ岳・地蔵岳・長七郎山・荒山・鍋割山)を踏破することを目標とし、7泊8日で4ヶ所のキャンプ場を移動しながら行われました。参加対象は小学4年生から中学3年生までで、群馬県を中心に関東近県から20名の参加がありました。

今回のキャンプでは「挑戦・協力・感謝」というテーマを初日に掲げました。そして、この言葉にそれぞれが自分なりの意味づけをしてほしいと伝えました。山歩きやテントでの生活、毎日の早起きなど、参加したすべての人が期間中に多くの「挑戦」をしました。そして、それを互いに支え合う仲間の存在に気づき、そこから「協力」を学ぶとともに、自然と「感謝」の気持ちが芽生えていきました。悪天候に見舞われ、予定が変更になったり、自分の背丈以上もある大きなカッターのオールに苦労させられたりもしました。しかし、そうした経験を1つ1つクリアしていくにつれ、たくましく成長していったように感じます。そしてそれを裏付けるように、子どもたちの表情は日に日に自信に満ちたものになっていきました。

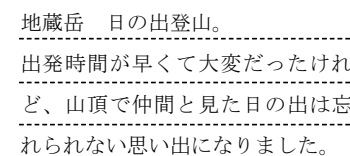
キャンプを通して得た自信やたくましさを支えに、これからのいろいろなことに挑戦し、成長し続けてくれることを願っています。(文:木暮)

裏で支えてくれたマネジメントスタッフたちが、目を真っ赤にしながらかたむき姿が見える前から大きな声で歌ってみんなのゴールを待っていました。

最後のゴールは1人も欠けることなく、全員でゴールの横断幕までたどり着くことが出来ました。みんなで集合写真。8日間、本当にお疲れ様でした。



赤城の大沼でのカッター体験。息を合わせてこぐのは難しく、なかなか進まなかったけど、みんなで声をかけながらこいだら、ぐんぐん進みました。



地蔵岳 日の出登山。出発時間が早くて大変だったけれど、山頂で仲間と見た日の出は忘れられない思い出になりました。

H27 国立赤城青少年交流の家 教育事業 赤城やまなみチャレンジキャンプ



赤城山最高峰の黒檜山山頂。ひとりではなくて、仲間と助け合いながら最高峰を登りきる事ができました。

やまなみスタッフの感想

いろいろな役割の人に聞いてみました!!

■ぬで島 隼人(ぬでちゃん) ■ 役割:プログラムディレクター
キャンプ中の子どもたちの成長、変化を見て、「子どもたちの可能性をいかに引き出せるか」を大人がもっと考えるべきと感じました。挑戦すること、話し合うこと、諦めること、多様な経験を自然にできる場面が必要なんだと思います。ここでの経験を人生の糧にして、これからの生活にも生かしてもらえることを期待しています。

■田野崎 和人(たのっち) ■ 役割:カウンセラー
キャンプ最終日に振り返りのスライドを見ながら、子ども達の真剣な眼差しやうれしそうな生き生きとした表情に成長を感じ、思いが込み上げてきました。キャンプ中は、疲労が溜まっていく中でも、お互い本音で伝え合うことで、「助け合い」のスイッチが入った瞬間をはっきりと感じることができ、うれしく思いました。

■神保 美波(みーちゅん) ■ 役割:マネジメント
「ただいまー！」元気なこの声を聞くことが毎日の楽しみでした。朝早く見送るときは、子どももスタッフもどこか不安そうだったり、緊張してたり。でも、帰ってきたときの一肌剥けた表情を見ると、良い体験をしてきたな、と幸せな気持ちになりました。体験するって素晴らしい！それをサポートするのはとっても楽しい！やまなみは夏の最高の思い出です。

これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問合せください
⇒TEL027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)

■自然体験指導者養成研修 (NEALインストラクター養成)
12/7(月)～10(木) 3泊4日
※NEALリーダー資格保持者が対象です

自然体験活動の指導に当たる指導者の養成をします。学校教育における体験活動の位置づけや自然体験活動指導者のしくみと役割を学びます。群馬県で初めての開催です。NEALインストラクターの資格が取得できます。

■リスクマネジメントセミナー
1/16(土)～17(日) 1泊2日

体験活動を行う際に必要なリスクマネジメントについて学びます。CONE(自然体験活動推進協議会認定)のリスクマネジメントディレクター・リスクマネージャーの資格が取得できます。

プログラム紹介!

体験可能なプログラム

【国立赤城青少年交流の家で行うプログラム】

■幼稚園/保育園対象事業

森のようちえん/ほいこ(日帰り～お泊り保育)

年齢、時期、目的に応じてプログラムを組み立てます。

参加費:1人300円(体験費)+指導者派遣代(1,000円/30分)+活動費

※活動費はプログラムによって異なります

※事前に園までお伺いし打合せを行います

■主催事業

①もりっこ(年長～小2対象)

②森のようちえん～ほんわか～(年少～年長の親子対象)

③あかぎぐんぐんキャンプ

(小1～小4対象:1泊2日)

■指導者の派遣

①レクリエーション、

クラフト等の指導

②企業研修

※内容、料金ともにご相談下さい

■住所:379-2147 群馬県前橋市亀里町1299-7エスコビル
■電話番号:090-9006-8711 (代表:ぬで島携帯)
■E-mail info@akagi-moriyou.com
※詳細はHP(<http://akagi-moriyou.com>)をご覧ください。

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 法人ボランティア

原口 隼一さん (ボランティアネーム:たらちゃん)



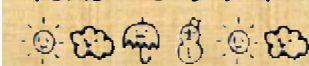
爽やかな野球少年のたらちゃん。本当に笑顔が素敵です。

交流の家のボランティアとして、キャンプのスタッフはもちろん、施設整備などでも幅広く活躍してくださっている原口隼一さん。ボランティアネームは「たらちゃん」です。たらちゃんが交流の家でボランティアを始めたきっかけの1つは、交流の家の主催事業の「あかぎサンサンかがやきキャンプ」。障がいがある子どもたちを対象としたキャンプです。持ち前の明るさと優しさ、そしてユーモアのセンスで、キャンプではいつも子どもたちに大人気なたらちゃん。どんな時も笑顔を絶やさず、場を和ませてくれます。

ボランティアをしている中で1番やりがいを感じる瞬間は、子どもたちと楽しい時間や新たな発見を共有したり、子どもたちの笑顔を見ている時だと語ってくれました。今後は、障がいがある子どもたちとの活動をさらに充実させ、また、同世代のボランティアとの交流活動にも参加したいそうです。いつも明るく元気なたらちゃんに、ぜひ会いに来てください。(文:大濱)



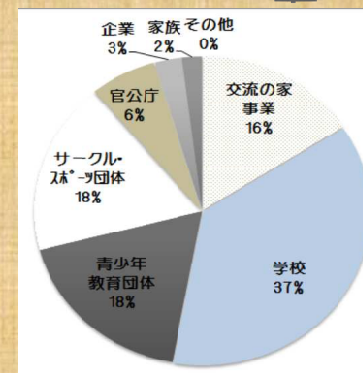
利用のようす(8～9月)



■8月の利用者数
…15,396人
127団体

■9月の利用者数
…12,675人
138団体

★利用団体
種類別の割合⇒



あかぎをつかう!

施設周辺の植物

実りの季節になりました。野外で活動していると、木の実に「豊作と不作の年」があることに気がつきます。木の実の成りには「豊作→不作→不作→不作→豊作…」といった3～5年の周期があるそうです。諸説ありますが、子孫を残す樹木の戦略であると言われています。

まず木々は2～3年の「不作」の年をつくります。木の実を食べる生き物が減少したところで、食べきれない程の実をつけます。これにより、大量のタネを残すのです。

今年は「豊作」の交流の家。クルミ、トチの実、松ぼっくり、どんぐりなど、たくさんの木の実が落ち始めています。



是非、実りの赤城山へ足を運んでみてください。(文:山田)

一票と間違われることが多いトチの実。トチ餅もこの実から作ります。

野外活動における・リスクマネジメント

入門編

第11回

『2015夏の備忘録』

・蜂の巣が多かった、今年の夏。スズメバチに、アシナガにいくつ撤去したとか。
・7月のはじめから、8月の中旬までは、標高530mの交流の家でも暑かった。熱中症で救急車を呼んだこともありました。
・林間学校で利用の児童が、夜、引率の先生を探しに事務室へ。先生方のミーティング会場が分からなくて、夜に何かあったらどこへ訪ねたら良いか、教えてあげると安心ですね。
・野外炊事の最中に突然の雷雨。雨がやむまで待とうと、屋根付き広場の下で長めの雨宿り。引率の先生に「退屈でなかったですか？」とたずねたら、「いえいえ、いろいろな形の雷が見えて子どもたちも楽しんでましたし、子どもたちも大騒ぎでした」。こんなステキな先生が引率だったら、きっと楽しく、思い出深い、林間学校になったことでしょう。(文:高瀬)